

# (3) 正しいことは勇気をもって

## 勇気を出せるわたしになろう

勇気を出して正しいはんだんをしたときの  
自信とほこり。

正しいことを行えないときの後ろめたさや  
後かい。

「みんなもやるから……。」  
と、あなたのはんだんをにぶらせてもよいの  
でしょうか。

成長とともに、はんだんできることもふえ  
てきました。

何が正しいことなのか、自分の行動にどう  
表すのかを考え、選ぶのはあなた自身です。  
勇気について考えてみましょう。



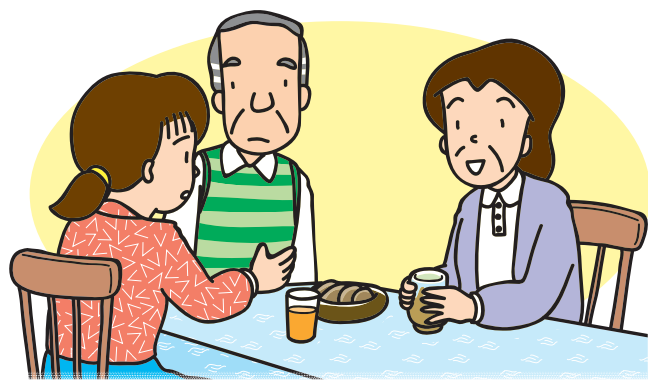
## なぜ、勇気を出せないのだろう

正しいと分かっているけど、なかなか実行できない。  
正しいと思ったことがなぜできないのでしょうか。

- 「こんなことを言うと、みんなはどう思うか。」  
と気になるから。
- 反対すると、仲間外れにされそうで心配だから。
- いけないと分かっているけど、楽しくてやめられな  
いから。
- 自分が言っても、みんなが聞いてくれないと思っ  
たから。
- 言い出すきっかけが見付からないから。

どうすればよいかははんだんにまよっ  
たり、どう行動すればよいかやんだ  
りしたら、一人で考えこまず、周りの  
人に相談する  
ことも大切です。

いろいろな  
人から意見を  
聞いて、正し  
いと思うこと  
を勇気をもっ  
て実行してい  
きましょう。



◆ この他にも勇気が出せないわけがありますか。考えてみましょう。



## 勇気をもって行動しよう

◆勇気のある行動とは、どのような行動でしょうか。次の行動について考えてみましょう。

- まよったけれど、電車の中でお年よりに席をゆずった。
- いじめている人に、やめるように注意した。
- あぶないことなのに、弱虫と言われるたくなってやった。
- 学校の帰りにより道しようとさそわれたけれど、ことわった。

## あなたの勇気をさがしてみよう

よいか悪いか、正しいかまちがっているかをはんだんし、勇気をもって行動できていますか。

義を見てせざるは勇なきなり

\*人として行うことが正しいと知りながらしないことは、勇気がないのと同じことである。

●勇気をもって行動できたときのことと、そのときの気持ちを書きましょう。

4年	3年

勇気をもって行動できたときの気持ちですが、さらにこれからの勇気ある行動につながっていきます。

昔、ある村によわむし太郎とよばれる男がおりました。

せはとても高く、カも人一倍あるのに、子どもたちからどんなにばかにされても、ひどいいたずらをされても、にこにここと笑っていました。

子どもたちは、それをよいことに、

「よわむし太郎。こっちへ来い。よわむし太郎。」

と、いたずらをするのでした。

ある子どもは、太郎が気付かぬうちに、馬のわらじを太郎のこしにし  
ばり付けて、はやし立てました。

また、別の子どもは、木の上から、下を通る太郎目がけて真っ赤にじゅ  
くしたかきの実をぶつけ、顔や着物をどろどろによごしてしまいました。

それでも太郎は、

「子どものことだもの、仕方ねえさ。」

と言って、にこにここと笑っていました。



太郎は、森の小屋に一人で住んでいました。

その森には、大きな池があって、そこに毎年、白い大きな鳥が飛んできていました。  
村の子どもたちは、その白い大きな鳥には決して悪さをしませんでした。

そればかりか、その白い大きな鳥を大切にしていました。

「今日は、十二羽もいるぞ。」

「おれのやったえさを食べたぞ。」

子どもたちにとって、この白い大きな鳥は仲の良い友達でありました。

子ども好きの太郎は、もちろんこの池に来ては、せっせとえさをやって世話をしておりました。

この国のこの様は、たいそう強く、その上、かりが大好きでありました。

いつもこの様は、家来を連れて野原や山をかけ回り、しかやうさぎ、いのししなどを仕とめてお  
りました。

あるときこの様は、太郎のいる村の近くでかりをしました。

山の中を一日中走り回りましたが、この日にかぎって一ぴきのえものもつかまりませんでした。

「ええい。何でもよい。何かつかまえないかっ。」

この様はたいそうはらを立てて、大声でとなり始めました。





でも、うさぎ一ぴきあらわれませんでした。すっかりおこったこの様は、子どもたちの遊んでいる森の中の池の方まで進んでいきました。

「おお。あそこに白い大きな鳥がいるぞ。これはよい、あれを今日のみやげにしよう。」

この様は、弓をかまえるとねらいを定めました。その時、

「だめだ。だめだ。あの鳥をうってはだめだ。」

大きな手をいっぱい広げて、この様の前に立ちだかた者がおりました。太郎です。

「こらっ、だれだっ。わしのじゃまをするやつは。」

おどろいた家来たちが太郎をどけようとしたが、反対に太郎にやられてしまいました。

「どけっ。じゃまをするとおまえも鳥といっしょに仕とめてしまうぞ。」

この様は大声を出しましたが、太郎は動きませんでした。

「だめでございます。あの鳥は、この辺りの子どもたちが、毎日えさをやって世話をしているのでございます。子どもたちが悲しみます。どうか、助けてやってください。」

太郎は両手を広げたまま、目から大きななみだをこぼして、この様にたのみました。

じっと太郎をにらんでいたこの様は、しばらくすると、ゆっくりと弓を下に向けました。

「おまえが子どもたちを思う気持ちと、その勇気にめんじて、この鳥をとらないことにしよう。」

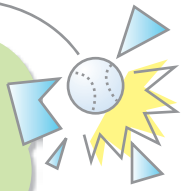
この様は、馬にまたがると、しろに向かって帰っていきました。どうなることかと心配していた子どもたちは、わっと、太郎の周りに走りよりました。

池にいるあの白い大きな鳥だけは、何事もなかったように、ゆうゆうと泳いでいました。

それから後は、「よわむし太郎」という名前は、この村から消えてしまいました。



ボール投げをしていて、  
まどガラスをわってしまった。



正直に  
言えない心

しかられるのがいやだから、  
知らなかったことにして、  
だまっていよう。

正直に言おう  
とする心

自分が失敗してしまったこと  
だから、本当のことを  
きちんと言おう。

どっちも



●こちらが勝つと、どのような気持ちでしょう。

●こちらが勝つと、どのような気持ちでしょう。

「心のつな引き」で自分と向き合おう

(4) 正直に明るい心で

自分に正直になれば心はとても軽くなる

すなおな心

「正しいことをしたい」という心を大切に  
して自分の心に真っすぐに向き合おうと、気  
持ちがすっきりとして、心が軽くなりませ  
んか。

すなおになれない心

「自分に都合が悪いから」「失敗をみとめ  
たくないから」「本当のことを言うのがこ  
わいから」といって、すなおになれなかつ  
たり、ごまかしたりすると、心が暗くなり  
ませんか。



# 自分の中の正直な心を見つめよう よく使う言葉から考えてみよう

自分の中にある正直な心を  
引き出していく言葉

「ごめんね。」  
「ありがとう。」  
「それは、わたしです。」  
「それはだめだよ。」  
「よかったね。」

自分はどちらの言葉を  
よく使っているだろう。

●自分の心に正直に行動できてうれしく  
感じたことはありますか。そのときの  
気持ちを振り返ってみましょう。

自分の中にある正直な心を  
おおいかくしていく言葉

(知っていても)「知らないよ。」  
(見ている)「見ていないよ。」  
(思わなくても)「そう思うよ。」  
(している)「わたしだけじゃないよ。」  
(関係があるのに)「わたしには関係ないよ。」



## 正直な心をもった人をさがそう

### お話で

●教科書や図書室の本などの中から、  
正直だと思った人をさがしてみま  
しょう。  
その人のどのような所が正直だと  
思ったのかも書きましょう。

### 生活の 中で

●日々の生活の中で、この人の行動  
は正直だなど思ったことはありま  
すか。  
その行動を見て、どのようなこと  
を考えましたか。

正直な人

どのような所

正直な行動

その行動を見て考えたこと

正直な人

どのような所

正直な行動

その行動を見て考えたこと



風のふく、寒い日でした。

「おい、エイブ。今夜は早く食事をしてねようじゃないか。」

主人のオフエットさんが、言いました。

「そうですね。今日のかん定をすませてから、食事にしますよ。」

エイブは、そのお店のわかい番頭さんです。紙切れにいったい字を書いて、売上金を調べています。

もう、とっくに日がくれました。夜になると、川に囲まれた町は、すっかりさびしくなります。町といっても、家がたった十五けん、百人くらいしか住んでいないのです。

今から約二百年前、アメリカのミシシッピ川の周りに散らばっているいなか町は、たいてい、そんなものだったのです。

オフエットさんの店は、さとう、塩、かま、くわ、ぼうし、くつ、服など、何でも売っていました。近くの農家の人たちが、ここへ来て、必要な物を買っていきます。

(変だなあ、かん定が合わないぞ。六セント半もあまってしまおう。)

エイブは、首をかしげました。それから、おでこをたたいて、

「あ、そうだ。おつりをまちがえた。」

と、つぶやきました。

昼間、布地をたくさん買っていった女性のお客があります。その人

にあげたおつりが、少なすぎたのです。

今まで、気が付かないでいました。

「大事なお客様だ。今日のうちに、返してこよう。オフエットさん、ちょっと

そこまで行ってきます。」

エイブはそう言って、オーバーを引っかけました。

六セント半のおつりをポケットに入れ、外へ出ました。冷たい風が、ヒューヒュー、体にしみます。でも、長い足で、どんどん夜道を歩きました。

この辺の農家は、広いあれ地や森の中に、ぽつんぽつんと建っています。ちょっとそこまで——そう言いましたが、なかなか着きません。なぜなら、昼間の女性は、十キロもはなれた農家の人だったからです。着くまでに、たっぷり二時間かかりました。





「こんばんは。ぼく、オフエット商店しやうてんのエイブです。」  
エイブは戸をたたきました。

「まあ、今ごろ、何のご用？」

女性が、不思議ふしぎそうに出てきました。

「あのう、実は、お金をまちがえたんです。昼間、布地ぬのじを買ってくだ  
さいましたね。あの時の、おつりですけど……。」

「じゃ、あといくら、差し上げればよろしいの？」

その女性は、てっきり、お金が足りないのだと思いました。

「いいえ、差し上げるおつりが、六セント半少なすぎたんです。ここ  
に、持ってきました。」

エイブは、あわててポケットからお金を出しました。

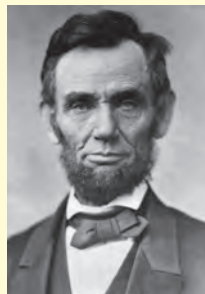
「あれまあ、あなた、それだけのことで、こんな寒さむいばん、ここまで  
来てくださったのですか。町の人が、あなたのことを、正直エイブ

だなんて言っていましたけど、本当にまあ。」

女性は、ひどくおどろいた様子ようすで、何度も、エイブを見上げました。六セント半といったら、今  
の日本のお金に直して、六円ほどなのです。

けれど、エイブは、にっこり笑わらって、

「すみませんでした。この次つぎは、気を付つけますから、どうぞよろしく。」  
と言うと、夜ふけの道を、真まっすぐ帰かえっていききました。



エイブラハム・リンカーン  
(一八〇九〜一八六五)  
第十六代アメリカ合衆国大統領

アメリカ、ケンタッキー州で生まれたエ  
イブラハム（エイブ）・リンカーン。まず  
しい生活にたえ、家族かぞくの死しを乗りこえた少  
年は、第十六代アメリカ合衆国大統領にな  
りました。

ラッシュモア山の  
四人の大統領の像ぞう

右はしがリンカーン



リンカーン像と  
リンカーン記念館





整とんが苦手

気になる所はどこだろう



はっきりと言えない



わすれ物をする

気になる所	良い所

●自分の良い所、気になる所を見つけてみましょう。



元気がいい

良い所はどこだろう



やわい



えがおがいっぱい



仕事をがんばる

自分の良い所、気になる所はどこだろう

(5) 自分の良い所をのばして

人物	人物	人物
学んだこと	学んだこと	学んだこと

● 伝記の人物の名前と学んだことを書きましよう。  
 伝記を読むと、いろいろな生き方にふれることができます。それぞれの人物がどのようなことになやんで、どのように自分をのばしていったのかを、本から学ぶことができます。

## 伝記を読もう

\*伝記とは、人物の生き方やしたことをまとめた本。

## 人生の先ばいに学ぼう

自分は何かに才能があるのだと  
いうことを信じましよう

マリー・キュリー  
(科学者)



ダメな子とか、悪い子なんて子どもは一人だっていない

手塚 治虫  
(まん画家)



いろいろなことにちよう戦して  
自分らしい表現方法を見付けて

俵 万智  
(歌人)



ダイヤモンドは何回も何回も  
きず付きみがかれて美しい  
かがやきを放つんだよ

千住 真理子  
(ヴァイオリニスト)



● 人生の先ばいからのメッセージを読んで感じたことを書きましよう。

## うれしく思えた日から

ふと思うことがあった。

ぼくは、勉強のときはまあふつう。せいかくは、自分でも悪くない方だと思う。でも、進んで何かをするのは、ちよっと苦手で、一応みんなといっしょに行動するけれど、中心になることはない。運動も、まあふつうと言いたいところだけど、鉄ぼうは、何度やってもさか上がりができなかった。みんなは、らくらくできるのに……。とび箱は、何とかとべる。でも、いつもおしりをこする。失敗するとますますきんちようして、次には、ゴツンと音がする。

(いい所なんて一つもない。)

そう思っていたのだけれど、ある日とつ然、ぼくがぼくであることをうれしく思える日がやってきた。それは、体育の時間のソフトボール投げのときだった。ボールは三十メートルをこえていた。みんなは、

「うおーっ。」

と声を上げ、

「しよう君、すごいなあ。いいかたをしてるね。」

と言って、かたをたたいていっしょに喜んでくれた。

クラスメイトのけい君が、

「ぼくらの野球チームに入りなよ。」

とさそってくれた。二回目も三十メートルをらくらくこえた。

「あなたは、野球に向いているかもしれないね。」

と、たんにんの川村先生も言ってくれた。

これまで気付かなかったけれど、ぼくにもいい所があったんだ。

その日の夕飯のとき、

「ぼく、野球をやってみたいんだけど。」

と、ボール投げのことを話しながら、家族に相談してみた。お父さんもお母さんも、大賛成してくれた。

「あのチームの練習はともきびしいみたいよ。でも、がんばって。しょうのいい所を生かしていったら、イチロー選手みたいになれるかも。」

と、姉さんもおうえんしてくれた。

次の土曜日から、ぼくは練習に参加した。練習はともきびしかった。投げるだけじゃ野球はで







きない。足こしを強くする走りこみもすぶりもノックも、へとへとになるまでがんばった。

チームに入って、もう一年になる。あのとき、みんなが言ってくれた「いいかたしてるね。」の言葉が、ぼくの元気のもと、おまじないの言葉になった。そして、いつも出られるとはかぎらないけれど、試合にも出してもらえるようになった。

いつの間にか、ぼくは、さか上がりができるようになっていた。とび箱もらくらくとびこせるようになった。五十メートル走のタイムも良くなった。もう一年前のぼくじゃない。

おまじないの言葉は、ぼくを元気にして、いい所をたくさん伸ばしてくれた。

ぼくの野球チームには、ずっと野球を続けて、甲子園に出場した先ぱいがたくさんいる。

ぼくもいつか、甲子園に行けるかもしれない。

もしかしたら、イチロー選手みたいに大リーグで活やくする日も夢じゃない。

## 自分の良い所をのばそう

●自分の良い所をどのようにしてのばしていきたいですか。

3年	

4年	